

WCRP 日本委員会 人身売買禁止に向けたアピール

私たちは人身売買という非情な犯罪を一刻も早く終わらせるためにここに集い、人身売買によって傷ついたすべての方々のために心からの祈りを捧げ、いのちの平等なる尊厳性を脅かす人身売買に対して強く反対の意を表します。

人身売買は現代の奴隷制とも言われ、「搾取」を目的とし、身体的、心理的暴力の「手段」を用いて、人権を無視し他者を支配する「行為」です。人身売買は紛争や戦争、気候変動やジェンダーの不平等によって加速し、加害者および組織は人々の弱みにつけこみ、不平等な状況を利用することで、被害者の同意のないかたちで性的搾取、強制労働、臓器売買などが行われるものです。

2024年6月、米国国務省が公表した世界の人身売買に関する年次報告書によると、推定2,700万人が労働、サービス、商業的性的搾取によって犠牲になっていると報告されています。さらに日本への評価はここ5年間「対策不十分」に据え置かれています。人身売買は水面下で行われる事が多く、この数字は氷山の一角に過ぎず、実際はより多くの犠牲者が、世界中で苦しんでいると言われています。

より良い賃金、生活を求めて、国際労働移動の潮流が著しく加速する中で、労働者の権利保護と管理の不公正さが問題視されています。日本国内において、ある外国籍の青年は家族の生活を豊かにするために技能実習制度を選択したものの、来日前に多額の借金を背負わされ、来日後も劣悪な環境下での労働を強いられ、外国籍というだけで差別や暴力、いじめによって心身ともに傷つき、「同じ人間として扱ってほしい」と痛切なる心の内を打ち明けました。

性的搾取の実態として、性的な画像などを送信するよう誘導し、それを拡散させる可能性をほのめかして脅し、金銭を要求する「セクストーション（性的脅迫）」の被害がインターネット上で増加していると指摘されています。その被害者の多くは女性や子どもであり、過剰な自己責任論の下、被害を言い出せず、とある女性は「搾取に遭って初めて性と尊厳が結びついていることに気がついた」と沈痛なる面持ちで語りました。

私たちは、現状を学べば学ぶほどに問題の深刻さを肌で感じ、社会に蔓延る不正義や搾取に対し、「しょうがない」で終わらせてはいけないと常に内省すること、そして犠牲のある状況に対して目を背けることなく改善に挑んでいくこと、こうした主体的な関わりを持つことの大切さを認識いたしました。

人身売買を根絶させるため、本日『人間の尊厳を考える円卓会議～人身取引反対世界デーに向けて～』に集った私たちは、あらゆるいのちの平等なる尊厳性を深く心に刻み、声なき声に耳を傾け、誰一人として取り残されない世界に向けて祈りと対話と行動を捧げることを続けてまいります。

2024年7月27日